

Ⅲ 電子マネーの保有・利用状況

1 電子マネーの保有世帯の割合は約4割

世帯全体（総世帯）について、電子マネーを持っている世帯員がいる世帯の割合の推移をみると、電子マネーの調査を開始した平成20年（24.4%）から毎年上昇し、24年には38.7%となり、4年間で1.6倍となっている。

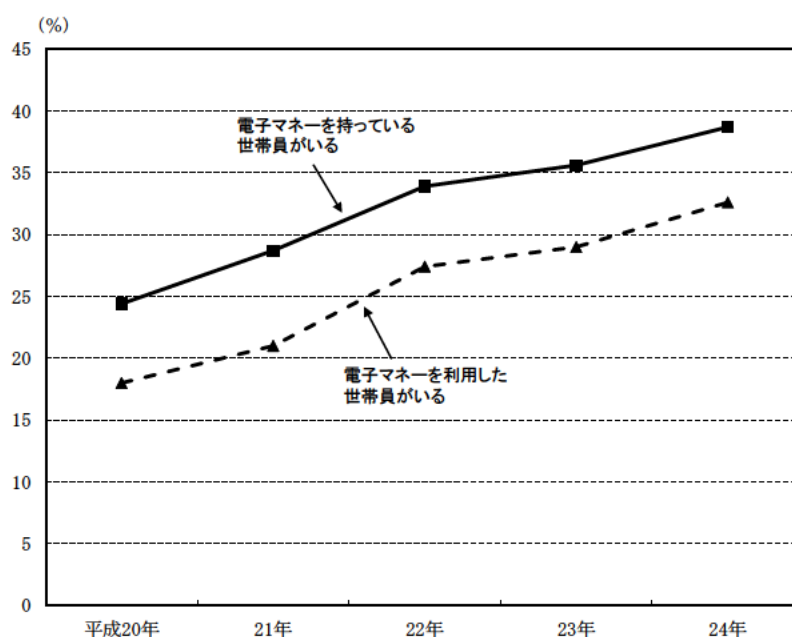
また、電子マネーを利用した世帯員がいる世帯の割合の推移をみると、平成20年（18.0%）から毎年上昇し、24年には32.6%となり、4年間で1.8倍となっている。

（表19、図19）

表19 電子マネーの保有状況の推移（総世帯）

	電子マネーを持っている世帯員がいる	電子マネーを利用した世帯員がいる
平成20年	24.4	18.0
21	28.3	21.0
22	33.9	27.4
23	35.6	29.0
24	38.7	32.6

図19 電子マネーの保有状況の推移（総世帯）



※電子マネーとは

この調査での「電子マネーの利用」とは、事前に現金と引き換えに金銭的価値が発行された IC カードやプリペイドカード等（次の例を参照）の利用をいう。

例) Suica, ICOCA, PASMO, nanaco, WAON, 楽天Edy, WebMoney, BitCash, クオカードなど

なお、デビットカードの利用や、クレジットカードのような後払い方式の決済サービスの利用は含まない。

また、パスカードなどのように特定の商品・サービスしか購入できないプリペイドカード等の利用も含まない。

2 電子マネーを1万円以上利用した世帯の割合は4年間で2.4倍

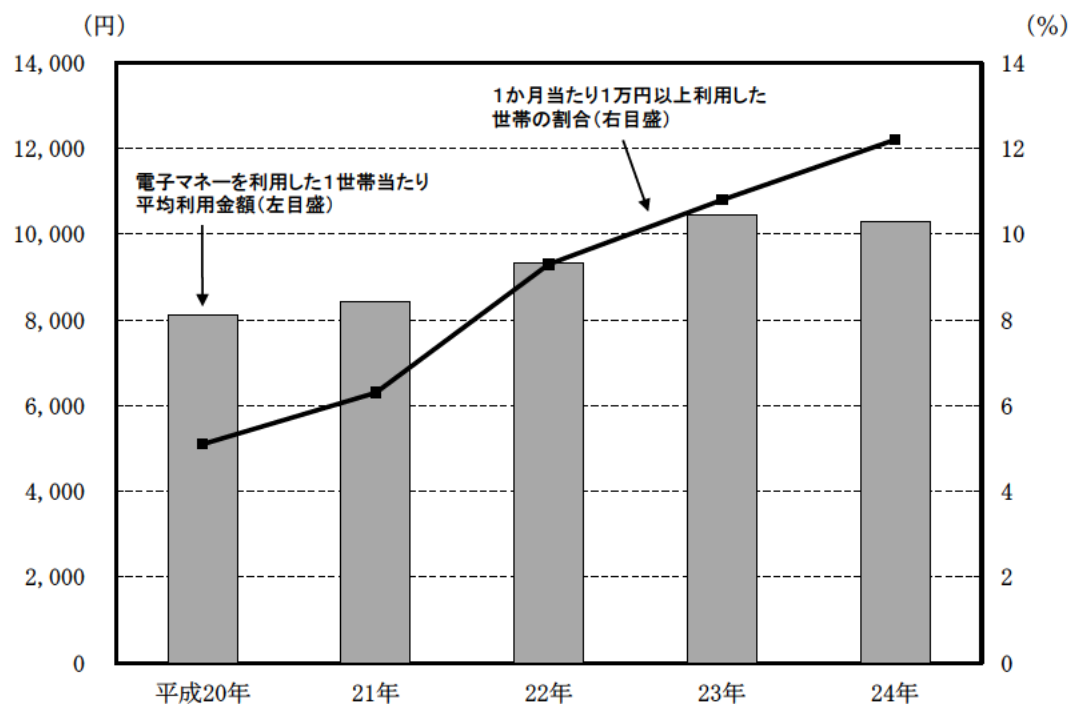
世帯全体について、電子マネーを利用した1世帯当たり1か月間の平均利用金額の推移をみると、平成20年（8,104円）から23年（10,457円）まで毎年増加したが、24年は10,283円となり、ほぼ前年と同額となっている。

また、電子マネーを1か月当たり1万円以上利用した世帯の割合の推移をみると、平成20年（5.1%）から毎年上昇し、24年には12.2%となり、4年間で2.4倍となっている。（表20、図20）

表20 電子マネーを利用した1世帯当たり1か月間の平均利用金額の推移（総世帯）

	電子マネーを利用した 1世帯当たり平均利用金額（円）	1か月当たり1万円以上 利用した世帯の割合（%）
平成20年	8,104	5.1
21	8,431	6.3
22	9,325	9.3
23	10,457	10.8
24	10,283	12.2

図20 電子マネーを利用した1世帯当たり1か月間の平均利用金額の推移（総世帯）



3 電子マネーの保有割合が最も高いのは関東地方

世帯全体について、電子マネーを持っている世帯員がいる世帯の割合を地方別にみると、平成24年では、関東が58.9%と最も高く、次いで近畿（33.2%）、東海（31.3%）などとなっている。

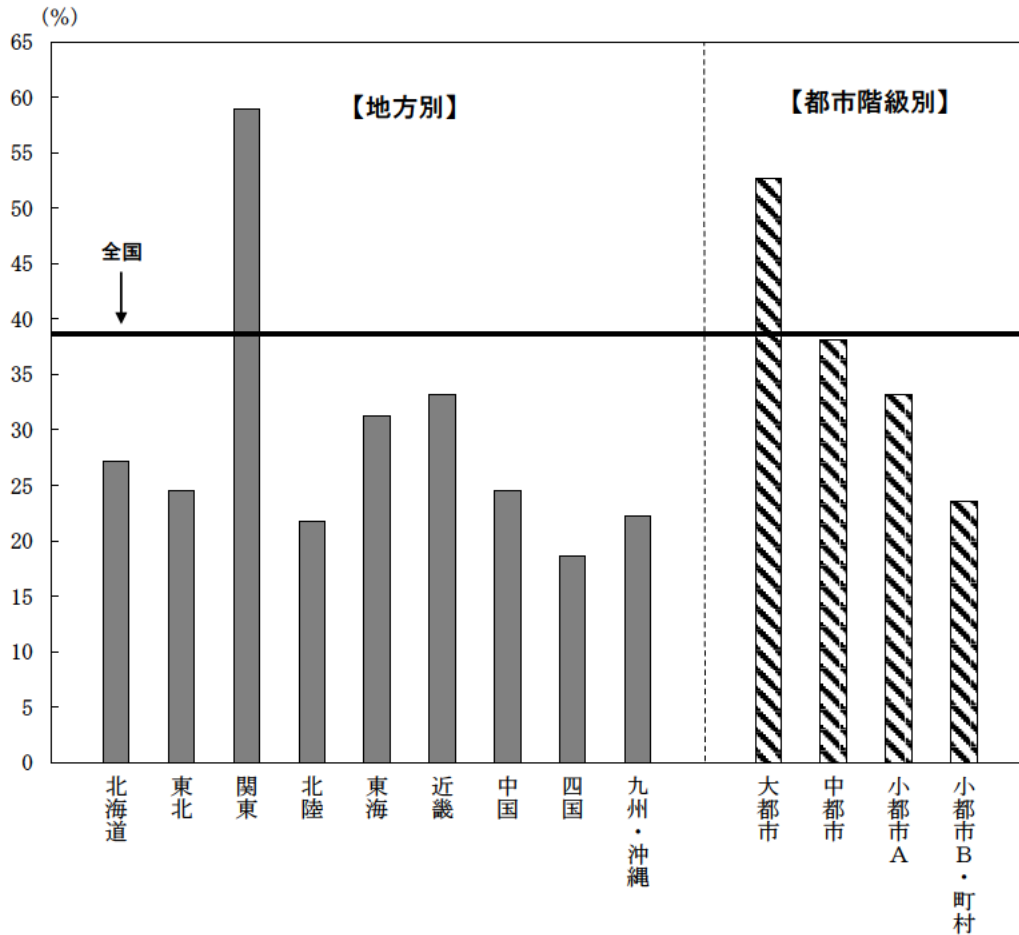
また、都市階級別にみると、大都市が52.7%と最も高くなっている。（表21、図21）

表21 全国・地方・都市階級別電子マネーの保有状況の推移（総世帯）

	全国	地方										都市階級			
		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	大都市	中都市	小都市A	小都市B・町村	
平成22年	33.9	19.2	23.8	52.7	24.4	21.7	28.3	23.8	19.5	20.1	45.3	33.9	29.1	21.1	
23	35.6	30.6	23.8	54.7	16.3	29.9	26.6	25.5	12.9	20.8	50.1	34.2	31.4	20.1	
24	38.7	27.1	24.5	58.9	21.8	31.3	33.2	24.5	18.6	22.2	52.7	38.1	33.2	23.6	

（注）地方・都市階級ごとの世帯総数に対する割合。図21も同じ。

図21 全国・地方・都市階級別電子マネーの保有状況（総世帯） — 平成24年



4 電子マネーの利用は関東及び近畿では交通機関、東北ではコンビニが最も高い

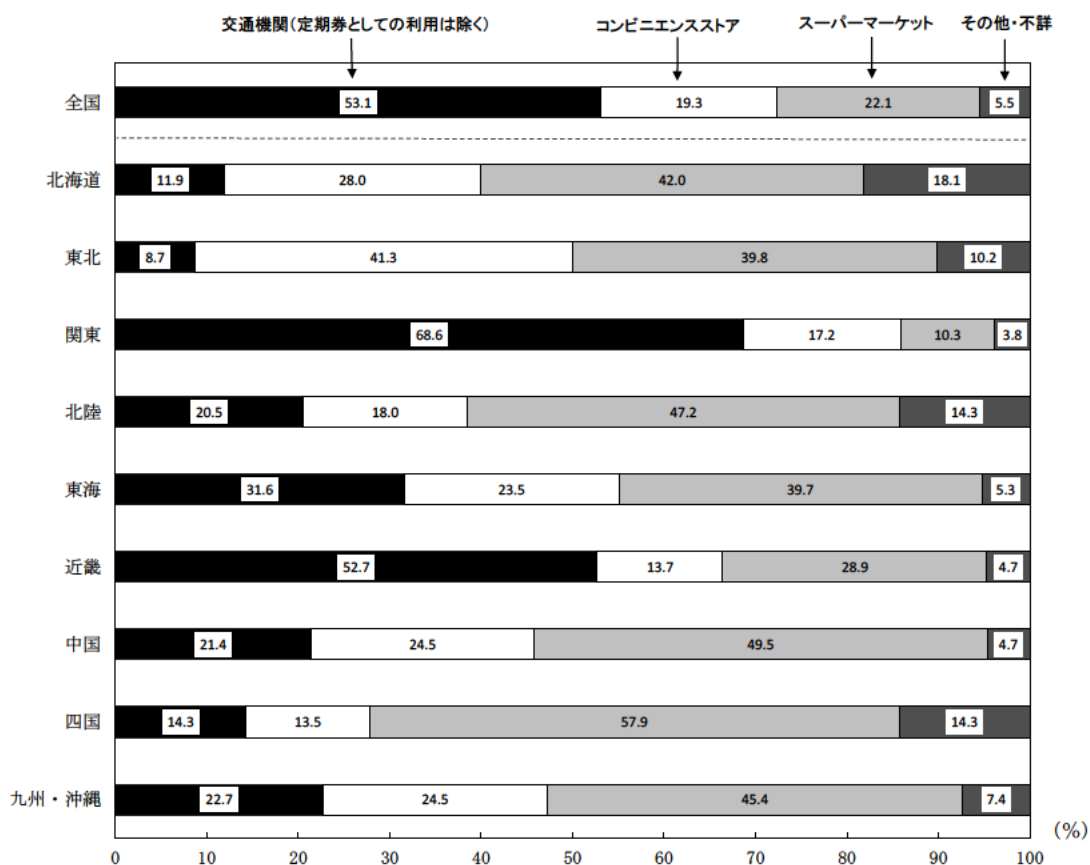
世帯全体について、電子マネーの利用回数が最も多かった場所の割合を地方別にみると、関東及び近畿では交通機関（定期券としての利用は除く）が、東北ではコンビニエンスストアが、その他の地方ではスーパーマーケットが、それぞれ最も高くなっている。（表 22、図 22）

表 22 全国・地方・都市階級別電子マネーの利用状況及び電子マネーの利用回数が最も多かった場所の割合
(総世帯) — 平成 24 年

	全国	地方									都市階級			
		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	大都市	中都市	小都市A	小都市B・町村
電子マネーを利用した世帯員がいる世帯の割合	32.6	19.3	19.6	52.3	16.1	24.7	27.7	19.2	13.3	16.3	46.7	31.6	27.3	17.5
【利用回数が最も多かった場所】														
交通機関（定期券としての利用は除く）	17.3	2.3	1.7	35.9	3.3	7.8	14.6	4.1	1.9	3.7	29.6	15.9	12.8	4.8
コンビニエンスストア	6.3	5.4	8.1	9.0	2.9	5.8	3.8	4.7	1.8	4.0	8.4	5.4	6.0	4.8
スーパーマーケット	7.2	8.1	7.8	5.4	7.6	9.8	8.0	9.5	7.7	7.4	6.6	8.5	6.8	6.6
その他・不詳	1.8	3.5	2.0	2.0	2.3	1.3	1.3	0.9	1.9	1.2	2.1	1.8	1.7	1.3
電子マネーを利用した世帯員がいる世帯の割合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
【利用回数が最も多かった場所の構成の内訳】														
交通機関（定期券としての利用は除く）	53.1	11.9	8.7	68.6	20.5	31.6	52.7	21.4	14.3	22.7	63.4	50.3	46.9	27.4
コンビニエンスストア	19.3	28.0	41.3	17.2	18.0	23.5	13.7	24.5	13.5	24.5	18.0	17.1	22.0	27.4
スーパーマーケット	22.1	42.0	39.8	10.3	47.2	39.7	28.9	49.5	57.9	45.4	14.1	26.9	24.9	37.7
その他・不詳	5.5	18.1	10.2	3.8	14.3	5.3	4.7	4.7	14.3	7.4	4.5	5.7	6.2	7.4

(注) 地方・都市階級ごとの世帯総数に対する割合。図22も同じ。

図 22 全国・地方別電子マネーの利用回数が最も多かった場所の割合
(総世帯) — 平成 24 年



5 40歳代以下の世帯では電子マネーの保有割合が50%超

二人以上の世帯について、電子マネーを持っている世帯員がいる世帯の割合を世帯主の年齢階級別にみると、平成24年は40歳代以下の世帯では50%を超えており、40～49歳が57.2%と最も高く、次いで30～39歳（57.1%）、30歳未満（50.1%）などとなっている。（表23、図23）

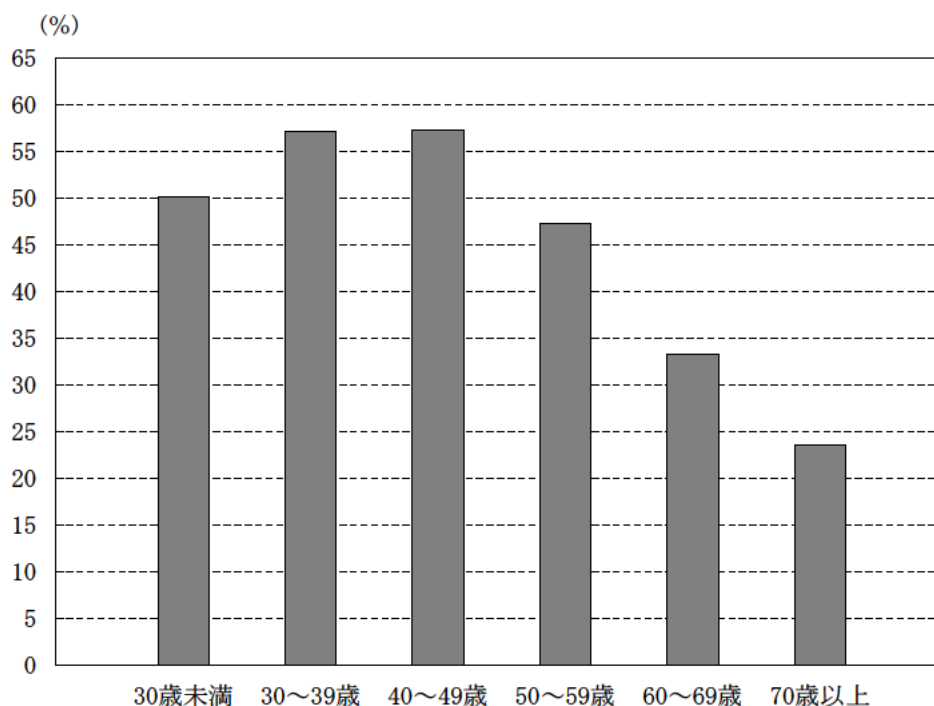
表23 世帯主の年齢階級別電子マネーの保有状況の推移（二人以上の世帯）

	平均	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
平成22年	36.5	52.5	49.2	50.8	42.7	29.1	21.6
23	37.4	46.4	51.1	52.9	43.8	30.2	21.6
24	41.1	50.1	57.1	57.2	47.2	33.2	23.5

（注）年齢階級ごとの世帯総数に対する割合。図23も同じ。

図23 世帯主の年齢階級別電子マネーの保有状況

（二人以上の世帯）－平成24年



6 電子マネーの利用割合が最も高いのは40歳代の世帯

二人以上の世帯について、電子マネーを利用した世帯員がいる世帯の割合を世帯主の年齢階級別にみると、40～49歳が48.0%と最も高く、次いで30～39歳（46.2%）、50～59歳（40.0%）などとなっている。

また、電子マネーの利用回数が最も多かった場所の割合を世帯主の年齢階級別にみると、いずれの年齢階級でも交通機関（定期券としての利用は除く）が最も高くなっている。（表24、図24）

表24 世帯主の年齢階級別電子マネーの利用状況及び電子マネーの利用回数が最も多かった場所の割合
（二人以上の世帯）－平成24年

	平均	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
電子マネーを利用した世帯員がいる世帯の割合	34.4	36.5	46.2	48.0	40.0	27.8	20.2
【利用回数が最も多かった場所】							
交通機関（定期券としての利用は除く）	18.0	17.3	21.2	24.0	20.1	15.4	12.7
コンビニエンスストア	6.2	6.2	9.6	10.3	8.7	3.9	1.6
スーパーマーケット	8.5	11.1	13.2	11.0	9.3	7.0	5.0
その他・不詳	1.7	1.9	2.2	2.7	1.9	1.5	0.9
電子マネーを利用した世帯員がいる	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
【利用回数が最も多かった場所の構成の内訳】							
交通機関（定期券としての利用は除く）	52.3	47.4	45.9	50.0	50.3	55.4	62.9
コンビニエンスストア	18.0	17.0	20.8	21.5	21.8	14.0	7.9
スーパーマーケット	24.7	30.4	28.6	22.9	23.3	25.2	24.8
その他・不詳	4.9	5.2	4.8	5.6	4.8	5.4	4.5

（注）年齢階級ごとの世帯総数に対する割合。図24も同じ。

図24 世帯主の年齢階級別電子マネーの利用回数が最も多かった場所の割合
（二人以上の世帯）－平成24年

